

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Series 1 Number 2

Sept. 1992

第14回獣医学学会（北海道大学）

「臨時総会の御案内」

家畜分科会のポスターは計46演題で、このうち二一番までは九月三〇日に、二二番から最終の四六番までが十月一日に行われる。

秋の学会はシンポジウムを中心に、一般演題は示説で、という方向での第一回の試みであるのでその成功が期待されている。

北海道大学の杉村誠教授を中心に準備に大変御苦労されたことを分科会あげて感謝したい。

なお分科会の評議員会はポスターセッションのあるクラーク会館のロビーで十月一日に行う予定であるので評議員の各位はどうかお忘れなく。

会員各位には別記のように杉村先生が準備して下さったビアガーデンでのパーティでの冒頭に、酒のつまみ程度の分科会の時間をとって報告やお願いをさせていただく。杉村先生からの御連絡では、大学、研究所のほとんどから少なくとも一名以上の参加の御申込があるとのことである。

日時：9月30日（水）
17時30分～18時30分
場所：第一会場
（クラーク会館2階）

（クラーク会館2階）

今回の学会では、理事会提案の獣医学会の改組案が審議される。その大要についてはすでに獣医学雑誌の第三号（六月号）に公表されているので、前号のニュースレターでとりあげた二月号での改組案との異同を前もって検討していただきたい。総会の決定をまっぴらからのことになるが家畜解剖学分科会は、基礎獣医学系専門部会になる。専門部会はこのを含めて全体で四部会ができるが、各々一千名程度の会員から構成されるので、現在正会員二五八名からなる家畜解剖分科会は少数派になることはさげられない。専門部会の部長、副部長、若干名の分科会幹事という役員選挙に影響を及ぼす。理事（16名）は会員数

によって四部会に配分されるが、部会の中でも少数派から理事を出すことは困難であると予想される。専門部会推薦の評議員（各部会から基本数として11名）についても事情は同じことである。以上は敢えて役員の選出についての問題点のみを挙げたが、形式的にもこれまでの分科会という名称をそのまま残すのか、「研究会」にするのか、あるいは日本解剖学会が医学会の一員として存在するように家畜解剖学会（JAV A）を正式の名称とするかをお考えいただきたい。ちなみに西田隆雄前分科会会長は「家畜解剖懇話会」を提案されている。

あの札幌で

サッポロビールと

シンギスカンが好きなだけ！

「ビールパーティの御案内」

10月1日（木）午後7時から常議の許す範囲まで。

宮の森ガーデン

会費：3,500円を当日北大正門前で係員にお支払い下さい。

料理：シンギスカンと若鶏のたけ放題

飲み物：ビール、ワイン、ジュース、コーラの飲み放題

集合場所：北大正門前18時10分、専用バスで送迎

「家禽組織学用語集」の

印刷と配布について

前号で紹介したように、解剖学用語集にも家禽組織学用語集（丸善）に併載されている用語集をつけたという意向で、家禽組織学用語集に対応して、日本中央競馬会と交渉を続けて

きたが、とりあえず次のように印刷物として会員各位に明年三月末までに配布することになったので御紹介する。

○家禽解剖学用語集の在庫（約一千部）がある間は第四版の発行を見合わせ、家禽組織学

西田司一先生御逝去



西田 喬子
眼鏡のあたりは厚いので、目をあきらめ、色つきの写真が写ったもので、手術後は白内障をおかけおりましたので、今年5月孫と写ったものです。

東京大学名誉教授西田司一先生は、去る七月一六日腎不全のため逝去されました。享年八三歳でした。

先生は、昭和九年三月東京帝國大学農学部獣医学科を卒業後、日本家禽研究所に一年、さらに農学部で副手を二年勤められた後、朝鮮総督府水原高等農林学校の教授になられました。その後、宇都宮高等農林学校教授を経て、昭和三二年に東京大学の助教授に就任されて、当時教授でおられた増井清先生と

もに、鶏における性分化と遺伝の研究の完成に尽力されました。昭和三〇年五月に教授に昇任され、同年八月には農学博士と

なられました。この間のご業績の中でマウスの副腎皮質における性差を実験形態学的に証明されたお仕事は、国内外から高く評価され、その後の新知見の導入となりました。このような哺乳類・鳥類における性分化・性差の解析から一歩進んで、畜産に應用面を貢献する研究としてX精子Y精子の分離法の研究を

進められました。先生は、昭和四四年にご退官された後も、常に研究に対する情熱を持ちつづけられ、最新の研究の動向を文献学的に精査されると同時に、若い学生と一緒に実験を続けられるその姿に、多くの後進は励まされました。

人に対する誠実さと信頼の厚かった先生のお人柄とご業績を偲びつつ、ここに謹んで哀悼の意を表します。
東京大学教授
林 良博

用語集を別刷とする。
○非売品ということにして、一千部を印刷し配布する。
○経費は60万円以内とする。
○第三版の時に下準備されていた原稿を藤岡俊健会員に再校正していただき印刷にまわすことにする。

○将来、「家禽発生用語集」がまとまった段階で「家禽解剖学用語集」と共に第四版として刊行する。
○編集・印刷・発行の業務を学窓社に委託する。
○本年度中に完成して競馬会に報告する。

歓迎

分科会新入会員

本年五月一日から七月三十一日までに新しく加入された会員は次の六名であった。更に加入者が増加するよう会員各位の御協力をお願いする。
城下 幸仁
(東京農工大学 解剖)

鈴木 栄子
(岩手大学 解剖)
難波 慈博
(麻布大学 解剖)
新居 祐介

（岩手大学 解剖）
東 英生
(神奈川県 野生動物保護管理)
真鍋 昇
(京都大学 生体機構学)

第二回 家畜解剖学研究奨励賞

☆おめでとう!!
岩手大学 斉藤 浩美君
受賞対象演題
「ラットの嗅覚受容器に対する各種レクチンの反応性について」

☆おめでとう!!
東京大学 東 正美君
受賞対象演題
「マウス栄養細胞膜細胞の分化・増殖に対する Insulin-like growth factor の効果」

評議員の方々からの投票（今回から投票用紙を制定）により前号で紹介したような基準で集計を行った結果、右の二君に賞を贈ることになった。
なお、秋の大会（北大）ではボスターが主になるため見送るという提案があったので、今回の選考対象は明年四月の大会の演題からえらばれる。

—アメリカ家畜解剖学会の近況—

本年度春夏号のAAVAニュースレターより
(vol. 11, No.1, May 1992)

- ☆ アメリカ解剖学会(AAA)での会合
(於: 3月13日 ニューヨーク ヒルトンホテル)
- a) ルイジアナ州立大学 DR. Al-Bagdadi, Dept. の名称が Anat. and Fine Structure から Vet. Anat. and Cell Biology に改名した。
また新しい Dept. Head に DR. Gary Wise が着任した。
- b) コーネル大学 DR. D. L. Noden.
近年 AAAへの家畜解剖学会員の参加が減少している。AAVAをFASEBに加盟させてはどうかと提案。Embryology of the Domestic Animals (邦訳が毎月刊行される)の第2版を計画中だが出版予定日は未定と発言。
- c) コーネル大学 DR. H. E. Evans.
カリフォルニア大学/Davis が旧来の Dept. Vet. Anat. を Dept. Cell Biol and Anatomy に改称。新しい Dept. Head は、DR. Dallas Hyde になった。
- d) サウス フロリダ大学 DR. Don Hilbelink.
(DR. Evans の guest). NIH の Visible Human 計画の一環としてヒトの embryo のコレクションをもとにしてスライドからビデオディスクに連続切片的像をいれる作業をしている。目下はヒトの embryo の Carnegie and Hooker-Humphrey コレクションの他いくつかのコレクションを手がけたいとしているが、家畜を含めた比較発生学のライブラリーに将来はしたいと考えているので、この計画についての情報提供と、材料の提供を AAVA の会員にも要望。

- ☆ 1982に南アフリカに戻るまでオハイオ州立大学 Vet. Anat. にいた DR. Pieter De Wet の死亡記事。
AAVAの現行の役員
- ☆ a) President. DR. Tom. Cacceti
b) (前 President. DR. Jack Munnell)
c) President-Elect. DR. Gerald Bratton
d) Membership-Secretary / Treasurer
DR. Wally Cash
e) Corresponding Secretary
DR. Teri Rowels

☆ Auburn University 他14大学の College News が紹介されている。

追記: WAVAの会長である W. O. Sack 教授(コーネル大学)は3月6日に心臓のバイパス手術を再度行い療養中であつたが回復され Gent (ベルギー)での WAVA の会議に出席の予定と連絡があつた。

提 案

家畜組織学テキストの
分科会としての共同執筆について

山口大 牧 田 登 之

明年(一九九三)に DE L L M A N 編の TEXT BOOK OF V E T E R I N A R Y H I S T O L O G Y の第四版が発刊されるので、目下家畜組織学の講義を担当の会員に分担をお願いして訳をすすめている。その首謀者でありながら、そろそろ日本語のオリジナルな家畜組織学の教科書を出すべきではなからうかと思わざるを得ない。人体組織学ですらに何種類もの日本語の教科書が刊行されて

おり、H A M や F A W C E T ・ B L O O M などの訳書と共に家畜組織学の講義テキストに採用されている大学も少なくない。家畜組織学というタイトルのものは前記の DE L L M A N のものなど2種類程度の英書と、国内では和栗先生(北里大)の著書と、岡野先生(日大)の実習書があるのみである。獣医学と家畜学の組織学受講者が年間に千数百人であるので、何種類ものテキストを発行するには無理がある。今後数ヶ月で大略の計画を立てて具体的な提案をする予定であるが、各会員からの積極的な御助言をお願いする次第である。

あるので、それぞれが得意な分野を分担執筆して単一のテキストを発売してはどうかという提案を敢えてしてみた。

会 員 消 息

- 金沢英作教授
東京大学農学部出身。日大歯学部教授に昇任された。
- 保田幹男学長
江南女子大学学長を退官された。鶴の解部に御専念。
- 藤村久子会員
日本電子の風戸賞を受賞された。
- 小倉淳郎会員
ハワイ大学への留学から国立予研に帰り、同研究所の移転で早速汗をかいておられる。
- 橋本善春助教授
ドイツへの留学から北大へ帰られた。
- ニースレターが返送されてきた会員
織部智宏教授(広島農業短大)
- 佐藤英明助教授
京都大学農学部より東京大学医科研へ。
- 和栗秀一教授
北里大学、中国の長春大に長期御出張。

国内会員 282名
海外会員 3名

家畜解剖学分科会正会員名簿一覽
(アイウエオ順)

1992年8月3日
現在

相川 仁	大上 美穂	北村 延夫	杉 雪子	恒成 一郎	藤田 常夫	山地 明子
青木 美穂子	大迫 誠一郎	北村 裕和	杉田 浩児	寺田 芳規	藤野 健	山田 治
浅川 光夫	大沢 一貴	北村 純三	杉谷 順康	遠山 隆二	藤村 久子	山田 静弘
浅利 将男	大島 浩二	木脇 祐順	杉村 純一	時松 隆生	星 信彦	山田 純三
安宅 俊	大泰 司紀	君島 哲夫	杉本 栄子	外池 武	星野 忠彦	山田 英雄
阿閉 泰郎	大塚 里一	木村 忠直	鈴木 淳	殿木 順平	本多 俊次	山中 要治
阿部 光雄	大塚 麻里	木村 正明	鈴木 栄子	内藤 雅晶	本田 誠司	山野 秀二
尼崎 肇	大森 保也	木村 直哉	鈴木 秀理	中井 洋子	前田 康之	山本 亜紀子
荒井 幸	岡野 真臣	工藤 宣夫	鈴木 孝司	中久喜 正一	真木 登之	山本 由美子
新井 宏幸	岡村 優	熊谷 光洋	鈴木 敏彦	中島 宥	牧田 義貴	山本 欣郎
有嶋 隆	岡本 敏一	倉本 和直	鈴木 正嗣	中村 和	松井 三郎	吉田 和生
安食 真一	小川 和重	栗原 昭三	鈴木 義孝	中屋 数	松尾 信一	吉田 淳子
五十嵐 忠雄	小川 健司	丸九 正道	砂田 嘉秋	水野 哲夫	松尾 敏	吉野 峰生
石井 勉	小川 豊明	幸村 真由美	スワハデ	那須 慈祐	松本 元	吉村 幸則
石川 創	萩野 朋子	小暮 敬一	775/793/	難波 隆雄	松元 眞鍋	吉本 めぐむ
石田 一夫	萩野 淳郎	小寺 邦弘	真井 郁子	新居 隆	馬淵 三浦	ラマダ サイフ
石田 哲也	小倉 知子	小原 忠人	鷹栖 裕	西田 駿	見上 晋一	脇 秀樹
一星 美仁	小倉 伸悟	小松 啓二	高橋 斉	西山 慶治	溝口 弘	和久井 信一
伊藤 俊輔	尾村 嘉昭	小峰 啓二	高原 達也	二宮 博義	御船 孝昌	渡邊 淳
伊藤 純治	織部 孝夫	昆 泰寛	滝沢 和彦	根岸 昭利	宮本 宅	渡邊 徹
伊東 信夫	柏原 真一	近藤 洋	田口 一成	野崎 菜穂子	宮坂 英三	
伊東 政明	加藤 敦子	近藤 明弘	田子 橋	橋本 善策	宮田 裕人	
稲垣 晴久	門崎 允昭	後藤 浩彦	田中 礼子	服部 一郎	宮本 義隆	
井上 敦志	金井 克晃	権田 辰夫	田中 利幸	鳩野 幸次	宮本 秀夫	
井上 忠志	金谷 惠里	斉藤 寛史	田中 保知	鳩 登志子	村上 公三	
猪口 繁三郎	村上 彩織	酒井 良英	田中 和美	早川 伸明	村上 望月	
猪股 智夫	鹿野 新司	佐加 和美	谷川 和之	林 東	望月 幹彦	
今川 智恵二	神谷 由美	笹井 文彦	谷口 健太郎	東 幹彦	森川 友	
岩瀬 隆久	豊原 高生	佐藤 元彦	谷口 健太郎	東 武夫	森友 保田	
岩元 俊彦	河川 直彦	佐野 秀史	種村 達正	平賀 浩二	矢野 昭二	
上嶋 安正	川口 利和	清水 孝司	醍醐 昌博	平松 順	山口 直樹	
植田 正人	川路 芳男	下内 康文	親跡 弘隆	蛭田 勝洋	山下 幸光	
内田 達夫	菅野 内	首藤 幸仁	近沢 月山	比留 良一		
瓜生 邦弘	野内 池	白井 文夫	月山 良一	福田 泰		
江口 保子	菊木 北	新城 豊浩	細 泰	藤掛 登		
遠藤 秀紀	木北					
及川 寿浩						

海外会員

- 李 在 鉉 (韓国)
- 林 貞 沢 (中国)
- KOESWINARNING SIGHT (インドネシア)

編集後記

家畜解剖学分科会が発展的(?)に解散するかという時点で、大切な北海道大学の第二回獣医学会での臨時総会について会員諸兄姉の注意を喚起することを第一の目的としてニューズレター第2号を出すことにした。とはいえ3号も勿論出す心算でいるので、どうかニュースの名に値する新しいネタを寄稿願いたい。前号で会員消息を載せてみたところ意外と好評であったので続けて行きたいと思う。ちよつと手近な情報に過ぎるかという自省の念をこめて広く情報をお寄せ下さるよう重ねてお願いする。分科会への新しい会員を大歓迎するのは当然であるが、正会員をコンピュータから打ち出してみると案外身近な人がいつのまにか退会して居られるか、分科会への登録をしておられない。獣医出身で医学部などで活躍して居られる方々などもどうか家畜解剖学分科会に復帰していただきたい。また教室の出身者で卒後に獣医学会から離れている方々にもぜひ再入会し、家畜分科会に登録して下さい。さるよう皆で手分けして依頼していただけにと有難い。

編集子